

<記者会見記事>

「朝日新聞」 2015年3月31日

茨城)東海第二再稼働、市議選予定者の賛否公開 日立

日立市民らでつくる「東海第二原発再稼働ストップ日立市民の会」(角田京子代表)は30日、来月実施される日立市議選(定数28)の立候補予定者を対象にしたアンケートの結果を発表した。「東海第二原発(東海村)が再稼働され、東京電力福島第一原発のような過酷事故が起これば市民は路頭に迷うことになる。自分の身近な問題ととらえ、市議を選ぶ際の参考にしてほしい」と話している。

市民の会は昨年9月、角田代表ら有志が結成した。会員は38人。東海第二原発から30キロ圏内にありながら、原発メーカーでもある日立製作所の企業城下町のせいか、再稼働の是非や原発問題の論議が低調な日立の現状を変えようと考えたという。

立候補予定者32人にアンケート用紙を手渡して回答を依頼。27人から回答を得た。内訳は現職20人、元職1人、新顔6人。

「東京新聞」 2015年4月2日

日立市議選出馬予定者 東海第二原発再稼働 賛成は14人、反対6人

統一地方選で行われる十九日告示、二十六日投開票の日立市議選(定数二八)に向け、市民グループが立候補予定者に対して日本原子力発電東海第二原発(東海村)の再稼働の賛否などを問うアンケートを実施した。三十二人中二十七人から回答があり、再稼働賛成は十四人、反対は六人。七人は「国の審査を注視している」などとして賛否を明確にしなかった。

このグループは「東海第二原発再稼働ストップ日立市民の会」(角田京子代表)。再稼働に反対する市民を中心に昨年九月に発足、三十八人の会員がいる。角田代表は「市全域が東海第二原発から三十キロ圏内に入るのに、市議会では過去四年間に再稼働中止や廃炉を求める請願と陳情計九件がすべて不採択となった。選挙でも原発問題は争点になっていない」と指摘。市議選の候補者となる人の考えを明らかにし、市民に投票の参考にしてもらおうとアンケートを初めて行った。回答した二十七人の内訳は現職二十人、新人六人、元職一人。再稼働に賛成した人は、安全性の検証や万全な防災対策などを条件とした上で「代替エネルギーが安定供給されるまでは必要」との意見が多かった。反対の人からは「老朽化している」「100%の安全はない」「福島事故の教訓から人間が制御できない」との指摘があった。

過酷事故発生時に実効ある避難計画ができるかどうかについても尋ね、七人が「できる」、六人が「できない」と回答した。

グループでは、回答を一覧できるチラシを配るほか、市内で五日に発行されるタウン誌「スペースマガジン」に詳細を掲載する。

‘15統一地方選:日立市議選 出馬予定者アンケート

原発再稼働、賛成14人・反対6人 /茨城

日本原子力発電東海第2原発の再稼働問題を巡り、市民グループ「東海第2原発再稼働ストップ日立市民の会」(角田京子代表)は30日、日立市議選(定数28)の立候補予定者32人に対するアンケート結果を公表した。回答のあった27人のうち再稼働賛成は14人、反対は6人。残る7人は賛否を明確にしなかった。

同会は昨年9月、「30キロ圏内に住む19万日立市民として再稼働を看過できない。福島の実験を繰り返さない」として発足。今回のアンケートは「結果を投票の参考にしてもらいたい」として実施した。

再稼働の賛否のほか、広域避難計画の実効性の有無の2点を聞いた。再稼働賛成の候補者には「代替エネルギーが決まるまで原発は必要」とする声がある一方、「人間が制御できない原発の再稼働には賛成できない」との反対意見もあった。

また、過酷事故時の広域避難計画については、7人が「避難できる」、6人が「避難できない」だった。角田代表は「候補者自身の意見ではなく、党の立場を記した回答もあった。結果についてはミニコミ誌やチラシで市民に伝えたい」と話した。